

“政治は百の言葉より一の結果”

山県市誕生後では初となる 3 期目の県議会議員として、次の世代に責任が持てる持続可能な山県市を市民の皆様と力を合わせて築きあげていきます。

2 期目の 4 年間も、決して平らな道のりではありませんでしたが、かけがえのない支援者の皆様と共に進めた挑戦は私の大きな宝であります。

政治は百の言葉より一の結果です。勿論、結果とは政策の実現です。

政治の安定と共に、毎年全ての予算が可決され全ての事業が実施されてきました。しかし、人口減少も少子高齢化も経済の成長も孤独や孤立などの社会課題はなぜ解決されないのでしょうか。

それは、理想と現実のあいだにある課題に対して、正しく向き合わず目の前の課題に目を背けてきたからです。政策の実現も各種事業の実施も市民の皆様を幸せにする方法であり手段です。目的は市民の皆様を幸せです。時として、目的と手段を間違え逆転し、事業を実施する事が目的になるからこそ、全ての政策を実現し、全ての事業を実施しているにも関わらず社会課題を解決する事ができず、その課題は取り残されています。

本当の結果とは政策を実現した先にある市民の皆様を幸せです。

私はこれからも政策の先にある市民の皆様を幸せを形にし、不安を解消し、社会課題を解決していくために政治を前に進めていきます。20 年後も現役世代で山県市を見届ける事のできる責任世代の政治家として政策に対する理念と論理、プロセスを大切に、エビデンス（証拠・根拠）に基づく政策立案で市民の皆様と共に持続可能な社会と責任のある成長を導いていきます。

『時には市民の皆様にも共に汗を流して頂く』

『時には市民の皆様にも共に責任を果たして頂く』

信念を貫き響き悪い訴えを続けていく中で、批判を受けることもあります。しかし、『今だけが良ければいい』『自分の周りだけが良ければいい』として次の世代にこれ以上に負担を先送りするわけにはまいりません。

目的は市民の皆様を幸せ。主語は常に市民の皆様。一緒に次の世代に責任が持てる次の世代に自信を持って引き継ぐ事のできる山県市を築いていきましょう。

岐阜県議会議員 恩田 佳幸
おんだ よしゆき

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



社会的包摂を大切に、ひきこもり支援を通して「誰1人取り残さない」という理念のもと、持続可能な社会を実現するために日々「何ができるのか」を追求しています。



POTENTIAL

活動報告

Vol.42 挑戦せずして、未来が開けますか。

県政報告

ひきこもり
支援の
新たな
取り組み
について。



おんだ

よしゆき

恩田 佳幸



恩田よしゆき 県政報告

ひきこもり 支援の 新たな取組み について。

抱えた不安に本気で取り組む！

令和4年第4回岐阜県議会定例会にて「ひきこもり支援の取組みについて」 提案をさせていただきました。

この度、ひきこもり支援について提案させて頂くこととなりました経緯は市民の皆様から様々なご相談を伺う中で、ひきこもりのご家族のお話しを伺いました。80代の両親と50代のひきこもりの方のお話しを伺う中で、「もっと早く課題に向き合い、真剣に将来について解決方法を考えなければいけません。もう今からではできないことも限られます。そして将来に希望が持てない。考える気力も続かない。」との切実な心

境を伺い、私自身が冷静にその心境を受け止めることができませんでした。

長年のひきこもりの状況や学齢期からのひきこもり、一度も就労せずに長年ひきこもり状況の方が一定数おみえです。誰もが希望に沿った未来を選択できる環境を整えるために具体的な支援策や本人や家族に寄り添った伴奏型の支援を行政と地域の皆さんと協働で実施していく体制を整えていくために提案をさせていただきました。

ひきこもりの定義

仕事や学校に行けず家に籠り、家族以外とほとんど交流がなくその状況が6カ月以上続くケースをひきこもりと定義しています。

ひきこもりの現状 岐阜県内のひきこもり状態の人数 推計17,000人

内閣府はひきこもりの実態を把握するため調査を実施していました。

平成27年度 全国推計 54万1,000人 (15歳から39歳)

平成21年度の調査と比較して22.3%減少しましたが、一方で、ひきこもりの長期化が確認される。

平成30年度 全国推計 61万3,000人 (40歳から64歳)



岐阜県ひきこもり等に関する状況調査について

岐阜県では内閣府の調査を踏まえて潜在的なひきこもりの把握に至っていない状況から、改めて15歳から64歳の方を対象として、「岐阜県ひきこもり等に関する状況調査」を令和元年7月から8月にかけて調査を実施して、令和2年3月に当該調査の報告書にて1,174人のひきこもりの方々が確認されました。

岐阜県におけるこれまでのひきこもり対策支援を踏まえて、この瞬間も抱える課題や不安に向き合い生活をするひきこもりの方々が希望する未来を実現するための新たな支援について提案をさせていただきました。

1. 一番身近な相談窓口となる市町村に重層的支援推進の窓口を設置し、現在、33市町村で設置がされている市町村プラットフォームの機能を最大限に発揮できる環境を整える。
2. ひきこもりに身近に対応にあたる市町村や社会福祉協議会、民間団体等への後方支援を実施する。
3. ひきこもりの要因として3番目にあげられる不登校の現状把握です。不登校の生徒が義務教育課程の修了、あるいは進路先、就職先が決まらないまま高校を中退、卒業する際に、本人が希望する場合には、ひきこもり地域支援センターがその本人の状況を把握できるように情報共有を行う。

質問

ひきこもり支援をさらに実施していくための計画の策定について

ひきこもりの調査や各種支援策を進めて頂く中でひきこもりの方々への具体的な支援策もみえてきました。それぞれの希望する支援を一人一人のおかれた状況に沿って実施していくために計画の策定を行うべきと考えますがご所見をお尋ね致します。



答弁

健康福祉部長

令和元年度に「岐阜県ひきこもり等に関する状況調査」を行い、専門家の分析結果に基づき、早期に相談窓口へ繋ぐ取組みの強化や関係機関の連携強化による支援の充実等を、今後の施策の方向性として位置付け、令和6年度までに順次取組むべき施策を整理しております。

また、医療・福祉・就労等の関係機関、NPO法人等の支援団体、学識経験者、市町村、県の関係部局等からなる「ひきこもり地域支援連携会議」を毎年開催し、支援施策や今後の課題等について議論をいただいております。

この中で、ひきこもりの経験者やご家族が当事者に寄り添った相談に応じるピアサポーターの養成研修や、オンラインを用いた居場所づくり等、ニーズに即した新たな施策を立ち上げてきております。

このように、県の施策の方向性と計画を策定すべきとの指摘も踏まえ、幅広い関係者からご意見をいただく場である「ひきこもり地域支援連携会議」において検討してまいります。

新たにひきこもりの支援の方向性を策定へ

令和6年度に改定予定でありました『岐阜県ひきこもり支援施策』を1年前倒しし、令和5年度中にひきこもり施策・支援の方向性を県民の皆様にご理解いただく形で示してまいります。



質問

ひきこもり支援を行うための「新たなサポーター」の創設について

ひきこもり支援を行う中でより多くの方々の、ひきこもりに対する理解を深めて頂き各相談体制や支援等の取組みに参画して頂くために「新たなサポーター」を創設してはいかがでしょうか。



答弁

健康福祉部長

議員ご提案のひきこもりの当事者やご家族が地域に居ることに気づいていただき、求めに応じて相談支援機関へ繋がる等の役割を担って頂ける、地域における理解者の養成はひきこもり支援の裾野を広げるために有意義なことと考えております。

そのため、これまでひきこもりに関する理解を深めて頂くことを目的として開催してきた「ひきこもり講座」について、年1回開催してきたところを、今後は複数回開催するとともに、ひきこもり支援に関する地域の民間支援団体や市町村の相談窓口をお伝えする等内容を充実させることで、講座受講者に地域における新たなサポーターとなっていくような取組みを進めてまいります。

今年度より当事者に寄り添った支援を行うため「新たなサポーター制度」が創設されました。



国も初となるひきこもり支援のマニュアル策定に乗り出しました。

今一度、社会的包摂を見直し、社会全体で誰一人取り残さない社会を築いていきます。